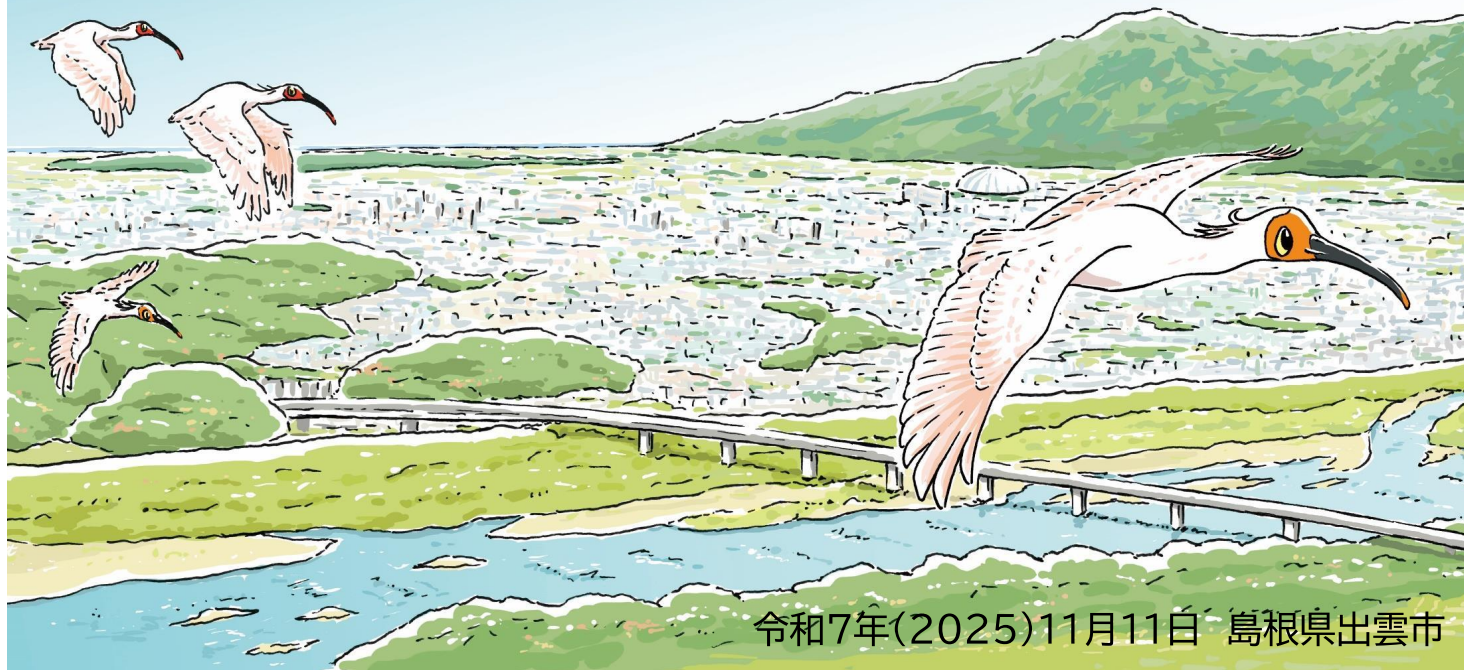


トキも人も育つまちへ ～トキの放鳥・野生復帰に向けた取組～



令和7年(2025)11月11日 島根県出雲市

機運醸成・普及啓発

普及啓発の強化・価値観の共有化
若年層に向けた発信力の強化

■シンポジウムの開催

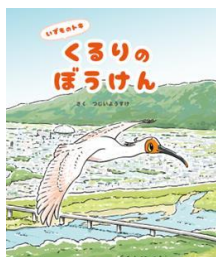
トキの放鳥を心待ちにしていだけるような機運を醸成するため、毎年、シンポジウムを開催。より多くの方に共感、賛同していただけるよう地元ケーブルビジョンで全編繰り返し放送を実施。



令和6年度のシンポジウムの様子

■トキのオリジナル絵本作成

幼少時からトキに愛着を持っていただくために、オリジナル絵本を作成。図書館をはじめ、保育所、幼稚園、小学校、子育て関連施設、小児科、ホテル等に設置。令和7年度から、3歳児健診時に受診者全員にプレゼント。



令和7年度 テーマ「つなぐ・つなげる」

■日 時 令和7年12月20日(土)13:30

■講演会 (公財)日本鳥類保護連盟 会長 小宮輝之氏
※出雲市トキ野生復帰アドバイザー

■座談会 小宮氏・出雲市長・地元自治協会 柿本氏
みなもかん 辻井氏・出雲村田製作所 大畑氏

■コーディネーター (公財)ホシザキグリーン財団 林氏

令和6年度 テーマ「挑戦」

■講演会 佐渡市長 渡辺竜五氏

■座談会 佐渡市長・出雲市長・雲南市長・環境省 荒牧氏
国土交通省 新屋氏

■コーディネーター (公財)日本生態系協会 関氏

令和5年度 テーマ「ロマン」

■講演会 (公財)山階鳥類研究所副所長 尾崎清明氏

■座談会 尾崎氏・出雲市長・三瓶自然館サヒメル 星野氏
島根富士通 金山氏

■啓発パネルの作成 小中学校に掲出

子ども向けに、トキの生態を季節別にまとめた啓発パネルを作成。ポスターにして8枚1セットを小中学校に設置。また、学校によって授業に活用。



授業でトキの啓発パネルを活用する様子

機運醸成・普及啓発

普及啓発の強化・価値観の共有化
若年層に向けた発信力の強化

■いずもトキファンクラブの設置

令和7年度から、公式LINEアカウントサービスを活用し、プッシュ型で情報発信。情報発信にあたっては、NPO法人いずも朱鷺21や出雲村田製作所・島根島津・島根富士通で構成する運営協議会を設置し、官民連携で情報を発信。



■トキ学習講座の開催等

トキ学習コーナーを活用した小学生向け学習会や親子生き物調査などのイベントを実施。この他、市内最大級のイベントである「いずも産業未来博」へのブース出展、島根大学フィールドワーク・小学校総合的な学習の時間等での講義を実施。



親子生き物調査や学習会の様子

■市のイメージカラーに「トキ色」を設定

新たに建設した公共施設のアクセントカラーやスクールバス、環境啓発グッズ、職員の名刺台紙、印刷物等に活用。



■地元説明会の実施

初回の放鳥場所として、稗原エリアを選定し、地域の機運を高めるとともに、重点的な餌場環境整備、ソフトリリースケージの設置場所の選考を依頼するため、説明会を実施。



地元説明会の様子

2

人的交流・地域活性化

つながる人の輪
トキを出雲市の新たなブランドへ

■企業と連携した事業推進

出雲村田製作所・島根島津・島根富士通が「3社共同地方創生SDGs取組」として、トキの野生復帰を積極的に支援。普及啓発事業や餌場環境整備事業を展開。また、全国展開するフジトランスポート等により、走る広告塔としてトキをラッピングを実施していただくなど、地元企業と連携した取組を実施。この他、地元ケーブルテレビが独自放送枠を設け、毎月トキの取組を紹介。



■環境にやさしいまち出雲の全国発信

第9回水辺からはじまる生態系ネットワーク全国フォーラム（東京ビッグサイト：R7.1）、応用生態工学会第28回新潟大会2025（朱鷺メッセ：R7.9）にパネリストとして参加し、市の取組を発表するなど、様々な機会を通じて、出雲市の取組を全国に発信。



第9回水辺からはじまる生態系ネットワーク全国フォーラムの様子

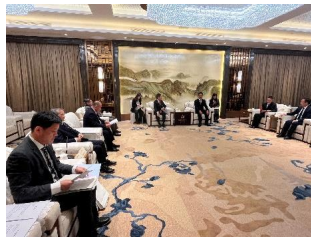
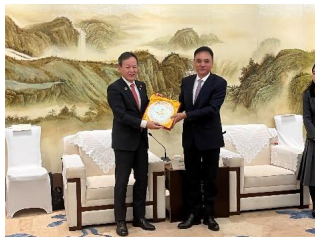
応用生態工学会第28回新潟大会2025の様子

3

人的交流・
地域活性化つながる人の輪
トキを出雲市の新たなブランドへ

■中国漢中市との国際交流の促進

新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大により、一時中断していた中国漢中市との国際交流について、令和7年度から再開し、今後も相互交流の促進を図ることを確認。



中国漢中市へ10/26～10/31の日程で、副市長をはじめ6人が訪問。
漢中市洋県には様々なトキ関連商品があり、環境と経済の好循環が図られていた。

■出雲と漢中市の交流

- 1991年 中国漢中地区と友好交流関係を開始
- 1996年 漢中市と友好都市協定を締結



- 2000年 漢中市のトキの飼育費用負担開始
- 2011年 トキ分散飼育開始
漢中市交流20周年記念事業



- 2019年 トキ公開施設オープン
- 2022年 野生復帰を目指す里地に選定
- 2025年 新型コロナウイルス感染症によって一時中断していた交流を再開

4

生息環境の整備

環境にやさしい農業の推進
生息環境整備に向けた取組

■田内水路(江)やビオトープを整備

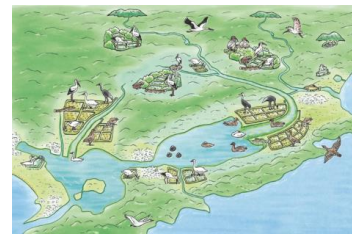
地域の営農組合や地元企業、日本鳥類保護連盟、日本生態系協会と連携し、水田内に通年湛水箇所となる田内水路(江)やビオトープを設置。また、市単独事業(補助率10/10)で個人が行うビオトープ整備を支援。



令和6年度に整備された江やビオトープ

■広域圏ネットワークによる取組

国土交通省出雲河川事務所が事務局を持つ、斐伊川水系生態系ネットワーク協議会(2県6市2町で構成)では斐伊川河川敷に人工水域の整備を検討するなど、広域圏での環境整備を推進。

斐伊川水系ネットワークイメージ図
(提供:国土交通省出雲河川事務所)

■餌資源量調査の実施

稗原地区野尻町内の水田18か所(合計315地点)において、季節ごとの調査を実施中(通年)。餌となる生物を捕獲し、餌となる生物の生息密度(個体数、湿重量)を調査し、調査範囲の餌資源量を推計。



【調査対象水田のカテゴリー設定】

農法	カテゴリー
慣行栽培	江あり・江なし
特別栽培(農薬・化学肥料5割減)	江あり・江なし
無農薬栽培	江あり・江なし

放鳥要件である、放鳥前の佐渡との餌資源量を比較すると、冬季調査においては、佐渡を若干上回る結果となった。
※佐渡と出雲は、調査地点が異なるため、条件をそろえて比較

5

放鳥に係る体制

放鳥に係る体制づくり

■放鳥候補地の選定

初回の放鳥候補地を稗原エリアに選定。仮設のソフトリリースケージを設置する候補地を地元から推薦いただき、センサーカメラによる周辺の生息動物調査に着手。早めに場所を選定することで、ケージ周辺及び稗原エリアへの餌場環境整備に重点的に取り組む。



初回の放鳥場所に選定した稗原エリア

■放鳥体制づくり

令和6年9月に佐渡島で実施された放鳥作業に、出雲市分散飼育センター職員を派遣し、放鳥作業・知識の習得に努める。



佐渡で実施された放鳥のソフトリリースケージ

■放鳥後のモニタリング体制の構築

令和7年9月から10月にかけて、佐渡のモニタリング体制とモニタリング方法について、出雲市トキ野生復帰アドバイザーと一緒に視察を実施。現在、野鳥愛好家や鳥類専門家を中心としたモニタリングチームの設立に向け、メンバー選考に取り掛かるとともに、必要項目を整理し、費用弁償のあり方や研修会の実施など制度化を検討中。また、トキの足環装着にあたっては、高所作業ができる専門家(空師)が多く在籍するNPO法人しまね樹木医会等と連携を図る方向で調整。

■アクションプランの改訂

国の放鳥方針や餌資源量調査の結果を踏まえ、令和5年度に策定したアクションプラン2025を令和7年度中に改定予定。放鳥に係る体制構築を図るとともに、餌場環境の重点整備、更なる機運醸成、トキ関連商品の開発促進など、環境と経済の好循環を目指す。



合言葉は

トキも人も育つまちへ

放鳥目標年度

令和9年度放鳥を目指す

